

R1・2における地域独自の支援 (緊急的かつ臨時的な支援)

支援対象

【対象経費】

JR北海道が維持困難線区において実施する、定時性や利便性、快適性の向上など利用促進に資する設備投資

【主なもの】

- ・観光列車の拡充(山紫水明・北海道の恵みシリーズ)
- ・特急気動車の改修(内装・変速機取替等)
- ・駅設備整備(Wi-Fi、多言語案内(モニター・看板))
- ・排雪モーターカーの整備



【支援主体】

道及び沿線市町村 ※「沿線」の範囲は、各地域協議会が決定

【支援規模等】

R1～2年度: 2億円(道・沿線市町村の合計)

R3～R5における地域の支援 (国と協調して観光列車等の取得を支援)

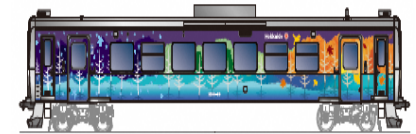
支援対象

【対象経費】

観光列車として活用可能な鉄道車両(北海道高速鉄道開発(株)による観光列車等の取得に対し、国と協調して補助)



〔特急車両・ラベンダー編成〕



〔H100形ラッピング車両〕
(※富良野線)

【支援規模等】

年度	支援対象車両	両数	取得額	道支援額
R3	特急車両(ラベンダー編成)	1編成	約18億円	約9億円
R4	普通車両(H100形)	4両	約11億円	約6億円
R5		4両	約11億円	約6億円

道としての主な利用促進の取組等

概要

・ 特急列車の車内環境改善(車内販売等)

JR、大丸札幌店の協力のもと、道・国の支援で導入した特急車両「ラベンダー編成」を活用し、列車内において車内販売の実証事業を実施

・ 各線区において実施する調査・実証事業への支援

国の調査・実証事業と連携し、鉄道の更なる利用拡大に向けた検討を行うための調査や実証事業への支援を実施

・ 道独自の利用促進の取組

首都圏におけるPRや黄線区への乗車促進キャンペーンを実施



首都圏でのPRイベント(R7)

北海道鉄道活性化協議会のこれまでの主な取組

北海道鉄道活性化協議会構成団体（全15団体）

本道の持続的な鉄道網の確立に向け、道民が一丸となって利用促進を始めとする様々な行動を展開するとともに、JR北海道が置かれている厳しい状況を全国に広く発信し、関係者と共有することで、本道の鉄道に対する国民的理解の促進、応援機運の醸成等を目的に、平成30年12月に、全道15団体で設立。

- 会長：北海道 ○副会長：北海道市長会、北海道町村会、北海道経済連合会、（一社）北海道商工会議所連合会、北海道経済同友会
○監事：（公社）北海道観光機構、北海道商工会連合会
○会員：北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会、北海道漁業協同組合連合会、北海道森林組合連合会
北海道医師会、北海道私立中学高等学校協会、北海道旅客鉄道株式会社

I 公共交通の利用促進に向けた道民運動の展開

◆ 参加企業・団体の募集、ノーカーデーとの連携

- ・ 企業への参加呼びかけなどにより、これまでに467の企業や団体等から活動への賛同

◆ 運動スローガンの普及と情報発信

- ・ 平成30年の協議会の発足時にスローガンを記したロゴマークを作成・公表



みんなで乗れば、
未来が変わる。

考えよう。行動しよう。公共交通の未来。

II 鉄道をはじめとする公共交通利用者の拡大

① 道民の利用拡大

- ◆ 道内でのPRイベントの開催（イオンモール、鉄道の日記念イベントなど）
- ◆ 道内鉄道の魅力掲載サイト「でかけれーる」による情報発信



「でかけれーる」情報発信サイト

② 観光客の利用拡大

- ◆ 道外イベントへの出展（ツーリズムEXPOジャパンなど）
- ◆ キャラクターとのコラボ等による道内周遊企画（スタンプラリー）の実施【R4～】

③ 利用促進に向けた地域の取組との連携

- ◆ 地域等が取り組む観光列車の運行に向けた支援【R2～】
- ◆ 子ども鉄道乗車体験【R2～】

◆ インフルエンサーを活用した鉄道旅の魅力発信【R7】

◆ 観光列車モニターツアーの実施【R1～】

※ 鉄道の観光利用促進のため、H100形等を活用したモニターツアーを実施

◆ 観光列車への沿線自治体のおもてなし支援

※ ザ・ロイヤルエクスプレス、「HOKKAIDO LOVE! ひとめぐり号」、花たびそうや 等

III 本道における鉄道網の重要性や地域の取組等の全国への発信

◆ 道内外における本道の鉄道網の重要性や役割のPR【R2～】

◆ 本道鉄道網の重要性をテーマとしたシンポジウムの開催【R5～】

◆ HPにおける地域の取組等の紹介【R5～】